

令和4年度 栃木県立真岡女子高等学校 学校評価

1 自己評価 (A：十分達成できた B：達成できた C：不十分であった)

本年度の 重点目標	1 生徒1人1人の自己実現に向けた学力の養成 2 体系的な進路指導の充実による高みを目指した進路実現 3 自己有用感を高め、心を耕す教育活動の充実 4 学びの保証と安心して学べる教育環境の整備	
評価項目	取組み	評価
1 教科指導の充実	・「授業力向上」を図る。 ・「ICT機器を利用した授業研究」を推進する。	B
2 組織的な進路指導体制の構築	・進路部のリーダーシップのもと、各学年・各教科との連携を強化し、進路指導に対する共通理解を図る。 ・各学年との間で進路指導のノウハウの共有化を進め、3年間を見とおした進路指導を強化する。	B
3 生徒会活動の活発化と生徒の積極的な参加	・生徒の自主性や創造性を生かし主体性を育てる生徒会行事を工夫する。 ・生徒会行事の内容を再検討し、その充実を図る。 ・桜が丘祭の準備を円滑に進め、各学年、各クラスとの連携を図り、充実した学校祭になるよう努力する。	B
4 感染症防止対策を徹底したうえでの生徒の健康の保持・増進	・感染症防止対策を徹底する。	A

2 学校評価アンケート集計結果について

11月に、生徒・保護者学校評価アンケートを実施した。

- ・本校の教育全体については、学校の雰囲気に関する質問で生徒、保護者ともに約9割の肯定的評価を得ている。
- ・進路・学習指導関係では、特に生徒の回答で全体的に肯定的回答が多い。例年、ICT機器の効果的活用の質問に対して否定的回答が多いが、今年度初めに1人1台のタブレットPCを配付し、校内でも活用研修を行った結果、肯定的回答が急増した。また、進路に関して適切な情報提供を行っているかどうかについて、生徒に比べ保護者の肯定的回答がやや少ない。
- ・特別活動面では、学校行事の充実に関する質問で肯定的回答の増加がみられた。同時に、感染症対策に関する質問でも肯定的意見が微増していることから、学校としての取組みが適切であったと言える。
- ・肯定的回答の減少が目立つのはHPや学年通信による情報の発信に関する質問であった。
- ・真女高に入学してよかったと思っている生徒が8割以上いるものの、3年間で減少傾向がみられる。
- ・自由記述においては、エアコンや暖房の使用、ホームページの更新や車による送迎などについて貴重な改善意見をいただいた。また、教職員に対しての温かい言葉をいただいた反面、真摯に受け止めるべき厳しいご意見もいただいている。

3 学校関係者評価

5名の学校関係者評価委員より、本校の自己評価について意見をいただいた。

- ・学力差が大きくなることへの具体的対策の充実について、特に家庭学習における予習、復習の仕方の説明や学習時間と学習内容の質の把握などの対策してほしい。ICT活用については、1月の授業見学の際、1年生がタブレットPCを上手にを使って発表しており、生徒の習熟度は高いと思う。
- ・進路指導体制については、連携する人と人との関係が基本であるので、風通しの良い指導体制をお願いしたい。学校選び、進路選びは重大事であるので、一人一人のニーズに応じられる情報提供をお願いしたい。
- ・生徒会活動については、自主的、主体的な活動というところが不十分かどうか判断しかねるが、学校祭を見学した限りでは生徒は生き生きと活動していたし、部活動での活躍も誇っているものだと思う。また、いろいろな場面で埋もれているリーダー的資質を見つけてほしい。

4 次年度へ向けて

授業に関する意識調査と学校評価アンケートの結果から、本校における教科指導や進路指導は概ね適切になされていた反面、学習面で生徒の興味を喚起し、それにより充実感・達成感を高める授業を展開することが求められていることも読み取ることができた。また、本年度、全生徒にタブレットPCを配付し、これまでよりもICT環境整備は進んだものの、十分に活用されなかったとの反省があった。入学する多様な生徒1人1人の自己実現に向けた取り組みのために、授業公開などを通して教科指導を充実させ、同時にICT活用を進めることで教員1人1人の授業力を向上させることで、生徒の充実感・達成感を高めたい。

生徒会活動については、生徒会役員を中心によく活動していたが、より主体性を育てる行事を工夫する必要があるとの反省があった。新型コロナウイルス感染症拡大の影響で自粛気味であった学校行事が少しずつ再開され、今年度は生徒がより活気ある学校生活を送ることができたことは大変良かったが、次年度はさらに生徒の自主性や主体性を育てる活動になるような工夫をしていきたい。